

# 令和5年度事業報告書

## 1 統計情報の利活用技術に関する調査・研究等に関する事業

(自主研究)

### (1) 地域メッシュ統計を利用した研究

国勢調査の地域メッシュ統計を使用した標本抽出、推定、誤差に関する研究を行い、  
集落抽出のデザイン効果や漸近性に関する分析を行った。

(文部科学省科学研究費研究)

### (2) 文部科学省科学研究費による研究

ア 当財団の研究者が研究代表者となっている研究課題

① 定量評価を活用した現代日本における演劇研究の基盤整備とその発展的拡張  
坂部科研（基盤研究（C）、令和5年度～8年度）

② 多様な公演分野別集計を可能にする日本の商業演劇公演データベースの整備  
坂部科研（基盤研究（C）、平成29年度～令和5年度）

イ 当財団の研究者が研究分担者（研究代表者は他機関）となっている研究課題

① 公的統計ミクロデータを活用したEBPM支援研究プラットフォームの構築  
統計数理研究所・椿科研（基盤研究（A）、令和3年度～7年度）

② ヨーロッパ音楽劇上演の変遷と伝播：言語と地域の横断的研究  
神戸大学・岡本科研（基礎研究（C）、令和元年度～6年度）

なお、本研究については、研究期間が再々延長され、令和6年度までとなった。

③ 外国人労働力を考慮した雇用創出と労働移動の計量経済分析

中央大学・伊藤科研（基盤研究（C）、令和3年度～5年度）

(受託研究)

### (3) 令和5年土地基本調査に係る法人土地・建物基本調査の復元倍率の検討及び結果集計等業務

国土交通省からの受託業務で、令和5年法人土地・建物基本調査の復元倍率の検討並びに保有・動態編のうちフロー部分の復元倍率の作成及び集計表を作成した。また、2023年土地保有・動態調査の調査対象者名簿及び集計表を作成した。

### (4) 2019年国民生活基礎調査の匿名データ案作成等業務

厚生労働省からの受託業務で、統計データ利用促進のため厚生労働省が一般への提供を予定している2019年国民生活基礎調査の匿名データ案を作成した。

(研究発表)

### (5) 学会等における研究発表

以下の各テーマについて、学会等において研究発表を行った。

ア. 経済統計学会2023年（第67回）全国研究大会

・（「関西国際空港と中部国際空港が周辺地域に与えた影響—地域メッシュ統計による地価と人口・産業の分析—」）；新井郁子・西内亜紀・草薙信照

イ. 2023 年度統計関連学会連合大会

- ・「タイの世帯類型別家計消費の特徴」； 米澤香・馬場康維
- ・「日本の演劇鑑賞者の特徴－社会生活基本調査の匿名データを用いて－」；坂部裕美子

ウ. 日本感性工学会感性商品研究部会出版より書籍を刊行

- ・『感性価値を高める商品開発とブランド戦略－感性商品開発の理論から事例まで－』第 10 章「宝塚歌劇団員の現役活動期間についての分析」；坂部裕美子

エ. 2023 年度文化経済学会研究大会

- ・宝塚歌劇団での現役活動期間についての分析；坂部裕美子

オ. デジタルアーカイブ学会

- ・学会誌掲載

「上演演目データの整理・分類における諸課題：18～20 世紀のオペラ公演を例に」；坂部裕美子

- ・大会報告

「オーケストラ・アンサンブル金沢の定期講演会の演奏記録データに関する報告」；坂部裕美子（山口恭正氏（仙台大学）と共同報告）

カ. 日本人口学会「地方行政のための GIS チュートリアルセミナー」

- ・「地域メッシュ統計による標準化女性子ども比の分析」；小西純

キ. 第 14 回横幹連合コンファレンス 2023

- ・東南アジア及び南アジアにおける地域メッシュ統計の利用例(想定)；西文彦

ク. 2023 年度第 2 回統計数理研究所 共同利用研究集会

- ・地域メッシュ統計からみた福島第一原発周辺地域への人口回帰の状況；西文彦

(その他)

(6) 研修講師等

- ・阪南大学の非常勤講師として、「ビジネスデータ分析 1, 2」を担当した。
- ・立教大学経済学部の講師として、「政策情報処理 A・B」を担当した。
- ・総務省統計研究研修所「GIS による統計活用」、本科「GIS」の研修を担当した。
- ・総務省統計局オンライン講座の研修を担当した。
- ・地方公共団体等が開催する統計に関する研修の講師を担当した。

(7) 統計情報の多角的利用のためのコンサルティング及び加工等事業

統計データを加工・編成し提供した。令和 5 年度のデータ提供実績は、合計 803 ファイルであった。このうち、地域メッシュ統計が 730 ファイルであった。  
なお、令和 6 年 3 月に令和 2 年国勢調査地域メッシュ統計の提供を開始した。

(8) 国際統計協会 (ISI) 第 64 回大会の論文紹介

この大会で発表された「世界各国の人口センサスの実施状況」等について、機関誌

「ESTRELA」で紹介した。

## 2 統計 GIS 活動奨励賞授与及び G-Census プレゼンテーション資料作成コンテスト事業等

### (1) 2023 年度シンフォニカ統計 GIS 活動奨励賞

推薦のあった中から次の 3 組に授与した。

- ・東京都市大学総合研究所 デジタル都市空間情報研究開発ユニット（代表：秋山祐樹  
研究分担者：馬場弘樹 水谷昂太郎）『政府統計と AI を活用した日本全土をカバーする現在および将来の空き家予測マップの開発と成果発信のための WebGIS 環境の整備』
- ・森岡 渉（イリノイ大学アーバナシャンペーン校 地理・地理情報科学専攻 博士研究員）『共立地・近接・偏在度の空間分析を通じた統計 GIS の研究・教育、普及・利用、整備・充実』
- ・（特別賞）（故）谷 謙二（元埼玉大学教育学部教授）『フリーGIS ソフトウェア「MANDARA」などの開発と提供』

### (2) 2024 年度シンフォニカ統計 GIS 研究助成

申請のあった中から次の 3 組に決定した。

- ・土屋 泰樹（富山大学 都市デザイン学部都市・交通デザイン学科 特命助教）『都市における飲食店の多様性の評価に関する研究』助成金 80 万円
- ・丸岡 陽（長岡技術科学大学 環境社会基盤系 助教）『小規模市街地としての全国の準 DID の空間的実態と持続可能性に関する研究』助成金 80 万円
- ・HUANG XINYI（筑波大学 理工情報生命学術院生命地球科学研究群 地球科学学位プログラム 空間情報科学分野 博士前期課程 2 年）『GIS を用いた富山市のコンパクトシティ政策の影響評価：環境的変化に関する総合的研究』助成金 80 万円

### (3) G-Census プレゼンテーション資料作成コンテスト

応募のあった中から次の 6 点を表彰した。

#### ○最優秀賞

- ・「大都市圏近郊都市におけるフードデザート問題の地域格差－京都府亀岡市を事例に－」劉思銳（他 2 名）（立命館大学文学部）

#### ○優秀賞

- ・「私たちが求める子育て支援～少子化の改善に向けて～」澤田歩佳（他 4 名）（大阪経済大学情報社会学部）
- ・「最低賃金と所得の関係とその地域差について」三浦美咲（他 2 名）（福島大学人文社会学群経済経営学類）

#### ○奨励賞

- ・「児童虐待をゼロに～子どもの権利と尊厳を守るために～」吉田恵太郎（他 4 名）（大阪経済大学大学院経営情報研究科）
- ・「日本の医療・福祉を救う外国人労働者のための環境整備」櫻井琳汰（他 4 名）（大阪経済大学大学院経営情報研究科）
- ・「広島県の人口流出問題の課題と改善案」後藤基耀（他 2 名）（立教大学経済学部）

- (4) gacco 「統計 GIS オンライン講座(基礎)」の再開講
- ・講座開講： 株式会社ドコモ gacco  
一般社団法人日本オープンオンライン教育推進協議会(JMOOC)
  - ・開講期間：令和 5 年 10 月 16 日～令和 6 年 1 月 15 日
  - ・受講登録者数 1,925 名
  - ・スタディノート（補助教材）を作成し、11 月 30 日提供開始した

### 3 統計に関する知識の普及・啓発等に関する諸事業

- (1) 機関誌「ESTRELA」の刊行・配布（発行部数：月 890 部）  
機関誌「ESTRELA」を毎月刊行・販売した。国公立図書館、大学図書館等には無料配布した。
- (2) PSI（ポケット統計情報）の刊行・配布（発行部数：3,000 部）  
統計情報の利活用推進の一助として、「PSI2024（ポケット統計情報）」を作成し、無料配布した。
- (3) 統計実務基礎知識の刊行・販売（発行部数：2,000 部）  
「統計実務基礎知識－令和 6 年 3 月改訂－」を刊行・販売した。
- (4) 統計調査員のしおりの刊行・販売（発行部数：21,000 部）  
「統計調査員のしおり－令和 6 年 2 月改訂－」を刊行・販売した。

### 4 統計情報セミナー事業

統計普及啓発のためのセミナーを一般財団法人日本統計協会との共催で開催した。セミナーは、新型コロナウイルス、インフルエンザ等の感染拡大防止のため、前年度に引き続き、WEB によるオンデマンド方式で下記のとおり開催した。

- 開催日時：令和 6 年 3 月 13 日～26 日
- 講演テーマ、講師
  - ・わが国の家計調査から見た消費支出の実態  
伊藤 伸介 中央大学経済学部教授
  - ・令和 6 年全国家計構造調査の意義と実施方法  
田村 彰浩 総務省統計局統計調査部消費統計課長
- 参加申込者：455 名

### 5 全国統計大会及び統計グラフ全国コンクールに関する事業

#### (1) 全国統計大会の共催

第 71 回全国統計大会を、総務省と共に開催した。

- 開催日時：令和 5 年 12 月 6 日 13 時 30 分～16 時 00 分
- 開催場所：国立オリンピック記念青少年総合センターカルチャー棟大ホール
- 行事：
  - 「統計功績者」各省大臣表彰
  - 地方公共団体における統計データ利活用表彰

- 統計データ分析コンペディション受賞者表彰
- 第 71 回統計グラフ全国コンクール入賞者表彰
- 令和 5 年度「統計の日」標語入選者表彰
- その他 : 会場のホール入口に第 71 回統計グラフ全国コンクールの入選作品  
(58 作品) を展示

## (2) 統計グラフ全国コンクールの開催

第 71 回統計グラフ全国コンクールを、都道府県統計主管課及び都道府県統計協会の協力を得て下記のとおり開催した。

- 後 援 : 総務省、文部科学省、全国統計教育研究協議会、NHK、(一社)日本統計学会、(一社)日本品質管理学会
- 協 賛 : (公財)矢野恒太記念会、富士通株式会社
- 応募作品数 : 19,554 作品 (全国)
- 審査会の開催 : ① 第一次審査……各都道府県  
② 第二次審査……統計部局職員  
③ 第三次審査……学識者、後援・協賛団体の代表
- 入賞作品の決定 : 特選、入選、佳作、奨励賞の 170 作品
- 特別賞の決定 : 総務大臣賞、文部科学大臣賞、日本統計学会会長賞、日本品質管理学会賞、金丸三郎賞、石橋信夫賞
- その他 : 特別賞受賞作品は第 71 回全国統計大会において表彰

## 6 統計調査総合補償事業

総務省統計局が実施する統計調査の円滑な実施を支援する観点から、統計調査員等の賠償事故の補償、災害事故の補償及び自動車事故対応諸費用給付金事業を行っている。令和 5 年度は、賠償事故の補償事案が 2 件、自動車事故対応諸費用給付金事案が 6 件であった。

## 7 オンサイト環境整備助成事業

公的統計のミクロデータの利活用推進を図ることを目的として、令和 2 年度から、大学を対象に公募により必要な経費の助成を行っている。

令和 5 年度は、申請のあった筑波大学(1 施設)、信州大学(1 施設)の 2 校 2 施設に対し選考の上、助成した。

## 8 公的統計活動支援奨励賞(石橋賞)授与事業

公的統計の作成及び利活用並びにこれに関する分野において顕著な貢献があった研究者を顕彰することを目的として、令和 2 年度から推薦を基にした選考・授与を開始した。

令和 5 年度は、一橋大学 : 清水千弘教授及び獨協大学 : 樋田 勉教授の 2 氏に対し選考の上、授与した。

## 9 統計・データサイエンス力向上のための授業に係る優秀事例表彰事業

統計・データサイエンス力の向上を図る先導的で優秀な授業実践事例を表彰し、授業の展開・普及に資することを目的として、令和4年度から、公募により行っている。

令和5年度は、小学校部門で4点、中学校部門で5点、高等学校部門で7点の応募があり、優秀事例選考委員会による1次審査、2次審査を経て、各部門から最優秀賞1点、優秀賞2点を選考の上、表彰した。

## 10 統計関連の学会等支援事業

### (1) 統計関連学会への協力

日本統計学会、応用統計学会、日本計量生物学会、日本計算機統計学会及び日本分類学会の委託を受けて事務局事務を行った。

### (2) 統計関連学会連合及び同大会の事務局事務

統計関連学会連合の委託を受けて会計事務を行った。また、2023年度統計関連学会連合大会開催のための環境整備支援(寄附)を行った。

### (3) 全国統計教育研究協議会の事務局事務

全国統計教育研究協議会の運営に係る事務局事務を行った。

## 11 開発途上国等への統計技術支援及び国際協力に関する事業

### (1) JICA エジプト中央動員統計局職員に対する本邦研修の実施

JICA 東京センターの委託を受け、令和5年度はエジプト中央動員統計局職員に対する研修を2回実施。第1回研修は5月17日から30日まで10名に対して実施。第2回研修は12月11日から22日まで9名に対して実施(和歌山・京都への地方視察を含む)。

### (2) 第3回アセアン・南アジア諸国統計職員招聘事業(石橋信夫記念国際交流事業)の実施

総務省及び外務省の協力・後援を受けて、アセアンを中心にアジア11か国から政府統計職員11名を招聘して令和5年8月29日から9月14日まで研修を実施

## 12 その他の事業

### (1) 地域メッシュ統計の国際標準化に係る協力

日本の地域メッシュ統計の標準を国際標準とすべく、国際標準化機構(ISO)に提案する事業に参画し、この事業内容を月刊誌「統計」に掲載した。

### (2) 一般財団法人日本ラジコン電波安全協会からの受託事業

日本ラジコン電波安全協会が実施する令和5年度アンケートの集計及び附帯事務を行った。

### 13 運営に関する事項

理事会及び評議員会を以下のとおり開催した。

#### (1) 理事会の開催

##### ア. 第1回理事会

開催日：令和5年6月1日（木）

場所：ベルサール神保町 2階 RoomA

東京都千代田区西神田 3-2-1 住友不動産千代田ファーストビル南館

議案 ○ 令和4年度事業報告に関する件

○ 令和4年度決算報告に関する件

○ 特定費用準備資金の積立に関する件

○ 令和5年度定時評議員会の開催日等に関する件

○ 定時評議員会に提出する新理事候補者名簿の件

報告 定款第22条第3項に基づく代表理事による職務執行状況報告

##### イ. 第2回理事会

開催日：令和6年3月26日（火）

場所：ベルサール神保町 2階 RoomA

東京都千代田区西神田 3-2-1 住友不動産千代田ファーストビル南館

議案 ○ 令和6年度事業計画に関する件

○ 令和6年度收支予算に関する件

○ 評議員選定委員会委員の選任に関する件

○ 任期満了に伴う評議員の推薦に関する件

○ 常勤役員候補者の公募要領に関する件

○ 常勤役員候補者選考委員会委員の選任に関する件

報告 定款第22条第3項に基づく代表理事による職務執行状況報告

#### (2) 定時評議員会の開催

開催日：令和5年6月16日（金）

場所：ベルサール九段 3階 ROOM2

東京都千代田区九段北 1-8-10 住友不動産九段ビル

議案 ○ 議長の選出の件

○ 議事録署名人の選出の件

○ 令和4年度事業報告に関する件

○ 令和4年度決算報告に関する件

○ 理事の選任に関する件

以上のとおりであるが、令和5年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので附属明細書は作成していない。

以上